



当院における医療連携ネットワーク導入と今後の課題

天使病院医療連携ネットワーク

札幌医療情報共有システム協議会 会長
天使病院地域医療連携センター長

西村 光弘

天使病院ではオーダリングシステムから始まり、平成23年5月16日に本格的に電子カルテを導入しました。当初は特に年配の先生からいろいろと抵抗もありましたが、使い始めてみると情報の共有や検査結果の閲覧などに大変便利で、現在ではなくてはならないツールとなっています。最近になって医療におけるICTの活用が推奨されてきており、当院でもいずれ医療連携ネットワークの導入が必要になると考えて検討していました。ちょうどその頃に北海道の平成24年度地域医療再生計画において「救急医療や周産期医療、小児医療などを中心とする高度専門医療機関の整備・拡充を図り地域の医療機関が連携することによって、患者の利便性を高めるとともに医療提供機能を分担し、圏域内で完結する医療連携体制を構築する」ことが目標として掲げられました。そして当院にも周産期医療体制の機能強化を図るとともに診療情報共有ネットワークの構築を行うことで、平成24年度補正予算による地域医療再生基金から補助金が交付されることになりました。具体的には「がん診療連携拠点病院や周産期母子医療センターなど中核的な医療機関が核となり、連携する医療機関間で患者の診療情報等の共有化が可能となるネットワーク体制を構築する」ことが目標として掲げられていましたが、当然のことながら他の診療科にも応用可能と考えていました。

導入したシステムはNEC（開発：株式会社SEC）のID-Linkでクラウド型です。セキュリティは公開施設間ではVPN回線を利用し、閲覧施設間ではVPN or SSLで接続しており、認証方法はIDとパスワード（PW）です。

情報共有の範囲ですが、現在は処方、注射、検査結果、画像を開示していますが、今後は手術記録、退院時サマリ、読影結果なども検討しています。

初期費用は約一千万円（9,988,650円）でしたが、平成24年度地域医療再生計画補助金で12,369,000円が交付されましたので、同時に15,540,000円の地域連携システムも導入しました。ランニングコストは保守費用が月額5万です。地域連携システムも導入したことにより全科において診療情報提供書の作成などが便利になったのですが、そろそろ更新の時期になるものの、今度は補助金の対象外のため現在検討中です。

平成29年4月12日現在の登録医療機関は24施設、登録患者は113人で、開示対象者は病院、診療所の

医療連携のみです。今後はさらに登録医療機関を増やすとともに、訪問看護ステーション、薬局との連携も検討しています。実際の利用状況は内科、小児科（関心の高いクリニックの医師が利用）、整形外科（回復期への転院の際に登録）などです。

閲覧している医師からは、「患者さんへの説明、同意をとる時間が持てない」「紹介した患者さんが戻ってくるタイミングであれば活用できる」「双方向のやりとりをしたい」などの意見が出ています。

課題としては、診療報酬上も次年度には退院時サマリの開示が求められていることから、診療情報提供書に添付している文書関係とも合わせて今後検討が必要と考えています（例えば、手術記録、退院時サマリ、読影結果など）。

改善点としては、平成29年7月には患者のフェイスシート（利用者情報）がリリース予定ですので、転院先への情報提供がスムーズにできるように検討予定です。また、連携医療機関で双方向にやり取りできる手段としてID-Linkにはノート機能があるのですが、他にも簡便なメールやSNSなどの活用を考えていきたいと考えています。

要望としては、平成28年度の診療報酬改定において診療情報提供料に「検査・画像提供加算200点」「電子的診療情報評価料30点」が新設されたことでICTの利用促進に繋がっていくことが期待されますので、今後も診療報酬面でのインセンティブがつくようにぜひとも検討のほどをよろしく願います。

ICTを用いた医療連携ネットワークといえども、信頼できる医療機関同士でなければ、もっと言うならば顔の見える相手同士でなければ有効に活用できないように思います。いくらAIが発達したとしても機械が相手では患者が絶対に安心感を得られないように、人と人の繋がりがあって初めてうまくいくのではないのでしょうか？ 実際のところ、当院でもID-Linkを始めてから5年になり、胆振地域や手稲溪仁会病院、国立がんセンター、市立札幌病院なども連携していますが、稼働しているのは近隣の医療機関で、しかも登録自体は伸び悩んでいます。やはり、医療連携ネットワークは二次医療圏というよりも普段連携している医療機関同士で機能するように思いますので、今後は登録医療機関で構成される札幌医療情報共有システム協議会などで交流を深めるとともに、札幌市医師会東区支部とも連携して医療機関の登録を増やしていきたいと考えています。

もう一つ不便なこととして、医療連携ネットワークもいくつかのシステムが存在し、しかも互換性があまりないことが挙げられます。このことも患者の登録や医療連携の障害になっているように思いますので、今後はぜひ解消に向けて国なり、道なり、市が取り組んでいただきたいと思います。そうすることで、今度こそ都市圏の中で病院の機能や特徴を生かした活用が可能になるように思います。最後に、もしID-Linkに興味のある方は当院地域医療連携センターまでご連絡ください。